

会議の結果

件 名	平成 28 年度第 4 回社会教育委員会議定例会
日 時	平成 28 年 12 月 16 日（金曜日） 午後 2 時～午後 4 時
場 所	田辺市民総合センター 2 階交流ホール
出 席 者	○社会教育委員 久保議長、高垣副議長、加藤委員、中本委員、三宅委員、近藤委員、西川委員、松場委員、庄司委員、榎本委員 計 10 名 （欠席）谷本委員、尾崎委員、九鬼委員 ○職員 中村教育長、弓場教育次長 （生涯学習課）杉若課長、北尾生涯学習推進係長、坂本公民館係長、竹邊生涯学習指導員、中田社会人権教育指導員、廣畑中央公民館主事、大倉中央公民館主事、岡本主査 計 10 名

1. 中村教育長挨拶

中村教育長から挨拶を行った。

今年も残り約 2 週間となりました。お話しを伺うと、今日は龍神では雪も降ったようです。学校もあと 1 週間で 2 学期が終了して冬休みに入りますし、12 月議会も順調で間もなく閉会を迎えます。



1 年間を振り返ってみますと、職員の不祥事という大きな問題もありましたので、市をあげて職員の引き締めに取り組んでいます。終始徹底の難しさもありますが、まずは私たちが襟を正していくことが大事です。今年田辺市にとって嬉しいこともありました。世界遺産への追加登録が決定し、大辺路街道の玄関口である關鷄神社も追加登録されました。新聞紙上では紀伊田辺駅舎の改築も報道され、それを中心とした駅前計画もなされています。駅から扇ヶ浜まで続く直線道路の中に田辺市の 3 偉人であります武蔵坊弁慶、植芝盛平、そして南方熊楠の 3 人を結ぶルートもはっきりとしてきました。地震対策、津波対策の中、市庁舎をどのようにしていくかも専門委員会検討しています。中心市街地を活性化しながら、どのように移転をしていくのかも大きな課題です。

合併して 10 年が過ぎ、次の 10 年をどのように見通していくかが重要です。町づくりを進めていく中で、人口問題は避けて通れない問題となっています。対策をしないと田辺市の人口は 5 万人を切ると予想がされており、少しでも維持していきたいという願いもありますが、和歌山県全体でも 100 万県民と言われていた人口は 70 万人を切るとも予想されています。皆で英知を絞って、和歌山県全体の人口減少を食い止め、田辺市も健全な町の体制が保てるようにすることが非常に大切な課題であります。

国でも地方創生と言われていますが、国の言う地方は、一体どこを指しているのか。平成の合併時の中心地なのか、それとも昭和の合併時の中心集落なのか、それより以前の地域もある中で、私たちの田辺市や和歌山県全体を見ましても、集落に住んでいる人は少なく、後継者もいない、集落として存続が難しいという所も沢山あります。しかし、そこに根付く生活、歴史や文化があり、そこでどういう施策を展開すれば良いのか、と考えても名案が出てこないのが現状です。社会教育委員や民生委員、地域の役員など皆で英知を絞って、生まれ育った土地が健全であってほしいと思っています。

そういう中で、社会教育の関係者が果たす役割は非常に大きく、より難しい時代に突入します。公民館の役割で考えた時に、市長の施策の最前線が公民館の主事、館長、役員の活動であります。それぞれの地域が元気になれば町全体が元気になる、その最前線を支えてきたのが公民館ですが、その最前線が非常に細っている現実も見つめながら我々は展開しなくてはなりません。細ってきているのであれば、統合という話になりますが、同じことの繰り返しで統合した中心地は少し潤うが、統合された方はますます厳しい現実を迎え、切羽詰まっています。学校統合も同じで、本当は残したいが、どうにもならない状況もあり、皆で悩んでいます。

喜びと悩みを抱えた 1 年間でしたが、来年はもっと希望の持てる元気の出る 1 年であってほしいし、そういう施策を展開しなければなりません。私たちが考えているのは、学校教育、社会教育を含めた教育行政の方針に何を核として持っていくのか、ということです。教育委員会では基礎基本の徹底と生涯学習の推進を 2 本柱

に10年間やってきて、一定の方向は出ましたが、いつまでも同じ施策と方針では長続きしません。もっと一歩進めていき、田辺市の子供たちが輝きながら学ぶ姿を作りあげていきたい。子供が輝けば必ず地域の保護者や地域の人々も元気が出てきます。良い知恵がありましたら、お貸しいただけたら、来年度の中心施策に取り入れていきたいと思います。

本日はご苦労様です。

2. 久保議長あいさつ

今朝、龍神では雪が降り、高野龍神スカイラインも積雪と凍結でチェーン規制となりました。皆様もお体にお気をつけください。

私事ですが、人権擁護委員をしまして11月17日に龍神小学校で人権教室をしました。初めて先生役で教壇に立ち、3年生が1人、4年生が3人の複式学級でいじめの授業をさせていただきましたが、先生のご苦労を感じました。2時限いただいて授業をしましたが、どうすれば子供たちに伝わるのか、どう進めれば良いのか、先生方と事前調整した中で、教頭先生から緊張せずに地域の人たちの目で、子供たちに伝えたいことを伝えてくださいと言われました。学社融合の中で、学校、家庭、地域の3者が連携して子供たちを育てていくことが大切だと私も感じていましたが、実際、教壇に立ってみて、こういうことが大切なのかと思いました。自分が授業したことは学校の先生方とは違う授業だったと思いますが、4人の児童が目を輝かせて、しっかりした意見を言ってくれました。大人としての責任感を感じ、教育長が言われたように子供たちが輝けるような、そして、社会教育の中でいろいろな年代の人が輝けるような取組を十分考えていきたいと思いますし、そういった社会教育委員会議にしていきたいと思います。

これから、3月任期満了が迫っていますが、気にせず引き続きご協議いただきたいと思います。



3. 説明事項

これより久保議長が進行を行う。時間設定等の説明を行った後、説明事項に入る。

- ・(1) 人事異動について、杉若生涯学習課長から説明を行った。
- ・(2) 平成28年9月議会の一般質問について、(3) 平成28年12月議会の一般質問について、弓場教育次長から説明を行った。
- ・(3) 平成28年12月議会の紀南文化会館の指定管理者の指定について、岡本主査から説明を行った。
- ・(4) 社会教育功労者表彰について、北尾生涯学習推進係長から説明を行った。



4. 報告事項

- ・西部地域学社融合推進協議会の平成28年度地域・学校協働活動推進に係る文部科学大臣表彰の受賞について、杉若生涯学習課長から報告を行った。

【質疑応答】

[近藤委員]

質問ではありませんが、11月17日付の紀伊民報で給食センターが個人別チェック表として、27品目の原材料についてどのメニューに含まれるか分かるようにしており、希望すればアレルギー除去チェック表を配っていると掲載されており、事細かに対応されていることが有り難いと思いました。また、知人の方が、息子さんにアレルギーがあり、学校に相談するとすごく丁寧に対応していただいたということでした。ありがとうございます。

[中村教育長]

城山台給食センターの職員は真剣に取り組んでいます。その他の給食センターや自校方式の給食でも子供の健康、安全を最重要課題として、地域の食材を活用しながら頑張っています。もう一点、給食費の徴収もなかなか100%にはなりませんが、給食センターの職員と学校の教師で家庭訪問などを行い、99%以上まで徴収率が上がってきています。



〔榎本委員〕

二葉議員から鎮守の森の保全の質問がありましたが、文化財のことで1件質問があります。具体的には鮎川の住吉神社のことですが、宮の木を触ることは嫌われますが、鬱蒼としており、お客さんもくらし、山の立ち木やかざらが巻き付いているものを整備してはどうかという話があります。ただ、文化財に指定されているので、枯れ木の撤去や間伐などには届出が必要ですか。



〔弓場教育次長〕

文化振興課に確認して、委員に報告します。

〔中村教育長〕

文化財は独自に取り扱うと問題が生じます。文化振興課と連携をとりながら、どうするかを考えていただきたい。住吉神社については、北郡越が世界遺産に追加遺産登録されたので観光客の起点にもなりますので、文化振興課には伝えておきます。

〔榎本委員〕

毎月1日と15日には掃除をしていますので、自分達でも研究してみます。

〔庄司委員〕

社会教育委員の代表として南方熊楠顕彰館の理事をさせてもらっています。南方熊楠のゆかりのあるものは時代とともに失われていくと思いますが、田辺市は南方熊楠の副読本を小学校4年生全員にあげて学習しております。中辺路でも公民館の活動で中辺路子ども環境探偵団があり、私も町内会長をしている関係で公民館活動協力員になっています。中辺路子ども環境探偵団には大きく活動が3つあって、その内の1つのテーマが「南方熊楠と中辺路」で近野小学校と中辺路小学校の4年生全員を対象にした学習会があります。特に中辺路には熊楠とゆかりの深い土地がいくつもあり、実際に巡る活動をしています。その中で、中辺路の水上地区に田辺市の熊野川に抜けていく道があり、南方熊楠が地元の人に世話をしてもらいながら採集活動したときに寝泊りした小屋が残っています。いろいろなエピソードも残っていて、地元の人が持ち主ですが道具小屋として放置されている模様なので、1つのポイントとして整備してはどうかと思っています。南方熊楠顕彰館の館長とも話はしていますが、熊楠の足跡を勉強する資料として活用してほしいと思っています。

〔中村教育長〕

その小屋に関しては、南方熊楠顕彰館の他の委員などはご存知ですか。

〔庄司委員〕

図書にも書かれているので知っています。当時の面影は無いですが、少し手入れをして、資料などを置けば訪れた人の参考になるのではと思います。他にも中辺路には、野中の一本杉や、熊楠が何度か泊まったと言われるもみじや旅館跡などがあり、そういった場所を巡って勉強しています。

<中村教育長 退席>

5. 協議

事務局から今後の人材育成講座について、説明を行った後に協議を行う。

〔松場委員〕

3つのグループに分かれて話をしてきたので、人材育成講座の3点の目的については皆さん了解していただけるんじゃないかな。

〔久保議長〕

講座の目的については皆さんどうですか。

〔庄司委員〕

すごく目的が大きくて、一つだけでも大変だと思う。地域のことを自分事にできる人だけでも大変だが、良すぎるのではと思う。

〔久保議長〕

細かく分けているが、大きく言えば一つにもできるかもしれない。ただ、焦点を明確にした目的にしている

ので、少し欲張った目的になっている。8年間継続してきた人材育成講座の中でハードルも上がってきているが、やはり地域の現状や課題を考えたときに、どのグループでも後継者などの人材の育成、発掘が課題となっており、人というのが根本にある。最終的には人づくりにつながるように、講座をするのであれば、焦点を明確にするという方向で考えている。

[庄司委員]

和歌山県社会教育研究大会でサスティナブル、サスティナビリティがキーワードでした。今ある地域が良くても、いつまでも良いままとは限らない。人口問題や後継者問題などあるが、最大限持続可能な地域づくりをしていくことが、一番大きな課題であるという話であった。先程の教育長の話でもあったが、人口減少が疲弊につながる。より良い人材以前に、少しでも人を増やすという課題もあり、その辺が今後問題になってくる。



[榎本委員]

子育て環境も問題になってくる。いろいろな待遇が良くない。企業も利益重視で、人件費を抑えている。若い人の給料も少なく、結婚しても養っていけない。子育ても厳しいといった傾向が全国的にある。

[久保議長]

企画委員会でも、多くの人がいてもコミュニティが作れない地域で良いのか、という話があった。区や地域の役員をしたくない人は、コミュニティから離れていく。地域としては協力していないので知りませんとは言えないので、そういう人でも地域で包んでいかないといけないといったジレンマもあると話があった。多ければ良いのか、少ないからダメなのか、自分たちでも判断できるような勉強も必要ではないかと思う。

[西川委員]

現実として、これから人口は増えないし、昔みたいな経済成長は難しいと思う。今回の人材育成の根幹には人口減少時代の人財増戦略を置いています。非自覚的市民やサービス市民が増えるのが良いのか、質の問題もありますし、元々は自治会や公民館の先細り論もある。大変だから放っておくと状況は悪くなる。子育て施策も与えるばかりでは、後から跳ね返りもあると思う。そういうことを考えたときに、人材育成講座をしたところで人がすぐ変わるわけでは無いでしょうが、極めて愚直に厚い壁に穴を開けにしようというのが3つの目的かなと思います。社会教育で人づくりをするというのは、教育基本法第1条だと思います。人格の完成を目指し、平和で民主的な国家、心身ともに健康な国民の育成を、学校教育、社会教育、家庭教育でやるという法体系がありますが、もう一度立ち戻って田辺から発信していく。田辺ができると思うのは200人の修了生という財産もある。全ての人が動いているわけでは無いし、批判もあるかと思いますが、そういうことができて自治体はあまり無いと思います。それぐらい、社会教育分野も疲弊おり、人材育成講座で風穴を開けられたら良いかなと思います。理念と方法と利益論の3方向から攻めていけたらと思います。

[近藤委員]

先日、読んだ本でGNP国民総生産からGLH (Gross Local happiness) 地域総幸福へというものがありました。人が減ることは仕方がないが、田辺に住んでよかったと思える人が増えてくれたら良いかなと思いますし、自分ばかりではなく、周りの人のことを考えられる人が増えてくれると良いと思います。頭の中だけでなく行動に移せる人は少ないかもしれませんが、8年間の講座で私自身も勉強になって、動けるところから動き始めている。そういう人が手を組んでいけば広がる。地道にやっていたいかなとしたいと思います。学んで、気付いて、動く、の繰り返しだと思います。

[久保議長]

具体的に講座の内容は決まっていないので、今後も企画委員に集まっていいただきながら詰めていくことになると思いますが、任期も人事異動もあり、同じメンバーでできるかどうか分かりませんし、方向性も変わる可能性もあります。今回説明はしましたが、多少の変更はご容赦いただいて、進めていきたいと思っています。

[岡本主査]

講師先生との交渉もありますので、スケジュール等が決まりましたら、随時、連絡をさせていただきますので、よろしくお願いします。

5. その他

○近藤委員から、美術館運営協議会の報告を行い、美術館に対しての意見交換を行った。

○事務局から今後のスケジュールなどの事務連絡を行った。

・第5回定例会 平成29年1月25日 午後2時～（田辺市民総合センター2階交流ホール）

7. 閉会

高垣副議長から閉会の挨拶を行った。

今年はいろいろな意味で世界中が揺れた年でした。地震もありましたし、イギリスのEU離脱やアメリカの大統領選など、民衆が押し流されて思いがけない結果になったものもありました。今の選択が正しかったかどうかは数年後にならないと分かりませんが、現在の価値観だけで考えると決して良い選択ではないと思う選択もあります。日本もそういう傾向があり、少し怖い流れがきているような気がしています。中国やロシアの出方も変わってきており、これからどんな世界になるのか、すごく考えています。これから社会教育委員会議で、どういう市民になってほしいかを考えると、経済至上主義は限界がきていると思います。経済の上昇ばかりを求めるのではなく、一つの小さなコミュニティの中でみんなが幸せに、余分なものはいらない、足るを知ることが大切であり、何の心配もせずに暮らせる地域を作っていかないと、本当の幸せにはならないのではと感じています。今の進み方には不安を感じており、世界的に限界がきていると思いますし、これからは小さな幸せを求める社会になってくると思います。田辺市の人口が極端に減るのではなく、持続可能な町であるように頑張っていきたいと思います。来年もよろしくお願いします。